

岩手から全国へ！
付加価値で躍進する
「家庭の漬物の味」

特集

② 岩手の底デカラ 支援企業紹介

株式会社青三

お知らせ

- ④ メドテック・チャイナ視察報告
いわて医療機器事業化研究会
- ⑤ 中小企業総合展 2010 in Tokyo
ビジネスマッチ東北2010
- ⑥ 国や県の研究開発事業を利用しましょう
コバルト合金事業・担当者紹介
- ⑦ 北いわてアパレル関連企業情報交換会
下請法を学ぼう！第3回
- ⑧ 賛助会員告知コーナー



岩手の

底

チカラ

支援企業紹介

岩手県紫波郡紫波町

株式会社 青三



国産の大根を使用した「なます」の袋詰め作業。ひとつひとつ重さを量ったあと、汁の量を自動調整できるセミオートマチックの機械によって袋詰めが行われる。

戦後の創業以来、手頃な価格で「家庭の味」を提供し、岩手県内で親しまれる漬物の加工販売を行う株式会社青三。同社がめざす、岩手県外の新たな市場に向けた付加価値のある商品開発と、販路拡大に向けた取り組みを紹介します。

岩手県内で親しまれ続ける「家庭の漬物の味」を提供

「岩手県で育った人であれば、当社の漬物を食べたことが無い人はいないといっても過言ではないでしょう。」昭和22年に創業し、現在は紫波町に工場を構える老舗漬物メーカー、株式会社青三。主力商品である「しわきゅうり」や「浅漬け」などは、手頃な価格で昔ながらの家庭の味が楽しめるとあって、岩手県内のスーパーマーケットでの販売をはじめ、学校給食や病院食、宿泊施設、飲食店など、あらゆる場面で親しまれている。その事実を聞けば、冒頭の佐藤マーケティング企画課長の言葉が決して大袈裟ではないことが分かるだろう。

戦後の盛岡市青物町（現在の仙北町）で、野菜の行商を始めた創業者の吉田三二郎氏が、売れ残った野菜を漬物にして売り始めたのが株式会社青三の始まり。当時は各家庭で漬物を漬けていたため、漬物を扱う行商人は他におらず「お金を出して漬物を買う人はい

ない」と言われたこともあったという。しかしその後、スーパーマーケットの出現・台頭や専業主婦の減少など、時代の流れとともに市販の漬物の需要は増加し、「青三の漬物」は岩手県民にとってお馴染みの味となっていった。

首都圏に向け、県産食材の使用や無添加の商品開発により販路拡大

株式会社青三では、商品のおよそ8割を岩手県内のスーパーマーケットで販売している。県内では浅漬けの需要が高いが、残りの2割は県外において、物産展などで販売される古漬けが占める。同社では県外における市場を広げるため、「岩手産」のイメージと品質の良さを生かし、付加価値のある漬物を提供するための商品開発に取り組んでいる。現在は、おもに首都圏に向けた新たな商品として、「いわて銀河プラザ」などを展開する岩手県産株式会社と共同で、海藻のアカモクと遠野産大根を組み合わせた古漬けを開発中。

Power of business human in Iwate

県産素材を使った加工食品の、新たな可能性
付加価値を探り、「岩手の漬物」を全国に！

今月の表紙

毎日およそ6000袋の漬物を出荷する、株式会社青三の工場。紫波町の工場では約30名の従業員が、野菜の洗浄から袋詰めにかかるまでの作業に携わっており、岩手県内のスーパーマーケットをはじめ、学校や病院、飲食店などに新鮮な浅漬けを提供している。

ポリフェノールやミネラル分を豊富に含むアカモクと、地元産素材の大根を使い、食にこだわる消費者に向けた無添加の漬物として販売していく予定だ。昔からの看板商品である「しわきゅうり」は、地元を中心とした岩手県産原料にこだわり、時代と需要に合わせた商品を提供していくための営業努力を怠らない。

地元産、無添加の商品を開発していく中で、今後は生協の共同購入にも力を入れていく予定だ。保存料・着色料などの添加物入りの商品は取り扱うことのできない生協の特徴をチャンスと捉え、「買い物に行けない高齢者や、食材にこだわりを持つ消費者など、青三が提供する漬物にマッチした市場なんです」と、佐藤課長は語る。

県産ブランドとして全国へ 岩手県や産業振興センターの支援

いわて産業振興センターとのつながりは古く、盛岡市仙北町から同市津志田に社屋と工場を移転した昭和48年には、設備貸与制度を利用した経緯がある。最近では専門家派遣事業を利用し、以前使用していた統一ロゴ「菜食健美」に替わる、汎用パッケージやキャッチコピー開発の相談を行った。

県外に向けた販路拡大や、地元産素材の仕入れ先の開拓において、同社では岩手県とも



株式会社青三

【代表取締役】 吉田秀樹

【所在地】 紫波郡紫波町高水寺字久上り16-2

【電話】 019-676-6633

【FAX】 019-676-4533

【URL】 <http://www.aosan.co.jp/>

取締役会長 吉田 勝彦

1941年生まれ。当時、盛岡市仙北町にて野菜の行商を行っていた、創業者である父の家業を幼い頃から手伝いながら、学校卒業と同時に入社。90年に社長に就任した後、92年に新工場を紫波町に設立。2007年会長就任。

強固な連携を築いている。商工労働観光部によるアドバイスをはじめ、県の農業改良指導員による生産農家とのマッチングや、県外に向けた販売戦略の相談など、業務の心臓部分にまで踏み込んだ対応により、同社の事業の幅は広がっている。県産素材の使用を増やしていこうとしている中で、県内の各農家での作物を、どのように生産しているかなどの情報提供をしてくれる指導員の存在は大きいという。

岩手県全体で取組みが強化されている、岩手県産ブランドの拡大に向け大きな可能性を持つ青三の漬物。創業者である三二郎氏の、売れ残った野菜に対する「もったいない」という愛情は、時代を超えても漬物というかたちで、日本全国の食卓に並べられている。

< P.3写真 >

1	4	5
2	3	6

1. 紫波町内の老舗酒蔵「月の輪酒造店」と共同で開発した粕漬の袋詰め
2. 岩手県産セロリを使用した浅漬用のカット作業
3. 商品に穴あきなどがなければ、ひとつひとつ人の目でチェックしていく
4. 古漬け用大根のカット作業
5. 古漬け倉庫の内部。夏に漬けられたきゅうりは、乳酸菌発酵が落ち着くまでの120日間ほどここで寝かされる
6. 店頭に置いた場合などを想定した品質管理など、商品に関するテストを行う研究室



メドテック・ チャイナ視察報告



8月25日(火)～26日(水)の2日間にかけて中国の上海虹橋地区で開催された医療機器・部材・要素技術の総合展示会であるメドテック・チャイナの視察に行っていました。

当センターが中核機関として取り組んでいる地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)テーマ名:「『いわて発』高付加価値コバルト合金によるイノベーションクラスターの形成」において、海外マーケットの開拓、技術の海外への情報発信による技術シーズのグローバル展開を促進することを目的とし、今後拡大が見込まれるアジア市場の中でも特に成長著しい中国市場への展開を図っていくため、上海で開催される本展示会を視察し、情報収集を行ったものです。

会期中の来場者は約5,000名と、日本で開催されているメドテック・ジャパン(於:パシフィコ横浜/3日間で約6,500名)と同等以上の盛況ぶりを呈しており、成長し続ける中国市場を象徴しているかのように、盛んに商談や意見交換が交わされておりました。

当センターでは、今後、このような海外展示会等の情報収集を重ねるとともに、関連事業でもあります「いわて医療機器事業化研究会」との連携体制を模索しながら、積極的な海外への情報発信と参画企業様の販路開拓の支援を行っていきたくと考えております。

いわて医療機器 事業化研究会

いわて産業振興センターでは、去る8月27日(金)に、盛岡市のホテル・ルイズを会場として今年度2回目の「いわて医療機器事業化研究会」を開催しました。19社、8機関、42名に参加いただきました。

今回の研究会は、東北経済産業局が今後の展開として考えている青森・秋田・岩手の北東北3県の医療機器研究会の連携活動を視野に入れ、弘前大学大学院理工学研究科教授の牧野先生より、「医用システム開発マイスター養成塾と医工連携について」と題し、養成塾の発足経緯から取り組みについてご講演いただきました。医用システム開発マイスター養成塾では、精密機器の設計・製造を担う地域の技術者を対象に、研究開発を先導できる人材の育成を体系的に行っているとのこと。

また、青森県商工労働観光部新産業創造課の村下主幹、(財)21あおり産業総合支援センター横内地域連携マネージャーより「あおりウェルネスランド構想～医療・健康福祉関連産業の創出・育成活動について～」と題し、青森臨床工学技士会と連携した医療現場の周辺機器等の具体的な改善活動等を中心に、青森県の産学官連携による医療機器関連産業への参入支援の活動をご紹介いただきました。

今後のいわて医療機器事業化研究会は、青森の活動を範とし、人材育成プログラムの作成やニーズ掘り起こし・医療関係者との接触機会提供の創出に努めてまいります。また、北東北において医療機器産業が主要産業の1つとなるべく、青森、秋田、岩手の連携を強化していきたくと考えております。



いわて医療機器事業化研究会 事務局
財団法人いわて産業振興センター
育成支援グループ 担当/福島
TEL/019-631-3822 FAX/019-631-3830
E-mail/joho@joho-iwate.or.jp

研究会の活動等の詳細は、次のホームページをご覧ください。

URL/<http://www.joho-iwate.or.jp/area/kentan/kentan.htm>

【会員企業数(平成22年8月末現在)】

- 正会員(県内ものづくり企業)80社
- 特別会員(大学、行政、支援機関等)15機関

- 共立医科器械(株)
- 【研究会協同代表(3社)】 ●(株)東光舎
- 谷村電機精機(株)

「いわて医療機器研究会」では、ご入会くださる会員の方を幅広く募集しています。ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

中小企業総合展 2010

in Tokyo

未来を見つめ、
明日につなぐ

入場
無料

11/10^水～12^金まで

10:00～17:00 (最終日は16:00まで)

【会場】東京ビッグサイト (東5・6ホール) 東京都江東区有明3-21-1

経 営革新等に果敢に取り組む中小企業やベンチャー企業が、自ら開発した新製品、サービス、技術等を一堂に紹介展示することにより、販路開拓、業務提携といった企業間の取引を実現するビジネスマッチングを促進することを目的として開催します。

中小企業、ベンチャー企業あわせて約700ブースの出展が予定されており、また昨年度の出展者に対するアンケートでは、91.8%が「新たなパートナーとの出会いがあった」と回答しています。企業同士のマッチングの場となる当総合展へご来場ください。

※今回から「ベンチャーフェアJapan」が統合され、中小企業総合展の一部となります。※東2・3ホールにおいては、首都圏企業による展示会「第13回産業交流展」が開催されます。

<http://sougouten.smrj.go.jp/> 中小企業総合展 検索

BUSINESS MATCHING TOHOKU 2010

「ビジネスマッチ東北2010」は、東北市場における新たなビジネスマッチングの創出を目的としたビジネス展示会です。

本イベントでは、東北の魅力溢れるビジネスシーズやニーズを出展企業や来場者が主体となって、活発な企業間交流やマッチング機会の創出と提供が行われます。

企業間のビジネスマッチングを促進する為、選任のマッチングコーディネーターが出展企業の交流支援も行います。

主催／(社)東北ニュービジネス協議会、(社)東北地区信用金庫協会、
(社)東北経済連合会・東経連事業化センター、(財)みやぎ産業交流センター

入場
無料

ひろがる つながる
今こそチャンス。
ビジネスマッチ
東北2010

10/27^水 10:00～17:00
【会場】夢メッセみやぎ 展示場・会議棟
仙台市宮城野区港三丁目1-7

<http://www.bm2010.jp/> ビジネスマッチ東北2010 検索

国や県の研究開発事業を利用しましょう 本格的に技術開発をしませんか？

国(経済産業省)の戦略的技術高度化支援事業

(通称サポイン:サポーターングイナダストリー)をご紹介します。

この事業では、経費の全額を補助金として受けること(正確には委託費)ができて、3年間で最大で1億円近くの支援を受けることができます。また、「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」の認定を受けて進める事業化支援事業ですので、販売支援の事業とも連動することができ、大変有利な事業です。

例年、3月から4月に募集され、6月から7月前後に採択になります。今年、ものづくり事業枠の一部が組み込まれたこともあり募集件数が大幅に増加しています。全国では、977件の応募で、308件採択されています。東北では、61件の応募で、20件が採択になりました。当センターでは、6件提出した中で2件の採択となりました。

サポイン事業は、自社の得意技術を分野ごとの川下企業のニーズにどう生かすかが評価のポイントです。エンドユーザーと直接のユーザーの要望に、皆さんの会社の技術をどう生かすか整理することで、事業化を成功させるかを検討して応募することが大切です。

基盤となる技術で、不足するところは、工業技術センターや農業研究センターなどの公設試験研究機関(公設試)からの支援を受ける準備も必要となります。また、より基礎的な支援は、大学の協力も得なければなりません。公設試・大学どちらも、来年度の計画に組み込んでもらうために、早めの相談が必要です。

来年度の国の事業がはっきりするのは年末以降になる予定ですが、今年度の景気対策の補正が組まれる状況から推測すると、

来年も同程度の募集が想定されますので、利用を検討される方はぜひ、ご相談ください。

なお、国の事業に応募するにあたり、「データの収集が不足している」「基礎的な理論との整合性を検討してみたい」とお考えの方は、岩手県の科学・ものづくり振興課が募集する「いわて戦略研究開発支援事業」で、2年間じっくりと取り組んでみる方法もあります。

一般枠(補助金…初年度800万円、2年目が600万円)が2件、ソフトウェアものづくり融合枠(補助金…初年度、2年目ともに400万円)が1件の計3件です。競争率は3倍ほどが見込まれます。こちらでも来年度の規模や時期は不明ですが、今年、4月12日に公募が開始され締切が5月14日でした。既に、この事業を踏まえて、サポインに進んだ開発事業が3件あり、サポインの実施中にも展示会での相談が得られる状況となっています。

写真は、長年の研究の流れのなかで、現在サポイン事業を活用して開発を進めている株式会社東亜電化様の展示会(平成22年9月8日~9日の日産様向け商談会)での様子です。



●お問い合わせ 人材・研究開発支援グループ 新事業技術開発チーム TEL 019-631-3825

Information from Iwate Industry Promotion Center

コバルト合金 事業・担当者紹介



事業総括
藤枝 賢之助

事業総責任者として事業運営・推進の指揮をとります。



科学技術コーディネーター
(医療系担当)
小野 高義

主にコバルト合金の医療分野での展開を推進します。



科学技術コーディネーター
(一般産業系担当)
鈴木 淳一

主にコバルト合金の一般産業分野での展開を推進します。



アシスタント
コーディネーター
青木 英樹

県の補助事業である「コバルト合金新産業クラスター形成促進事業」の推進と文科省事業の推進を業務します。

この8月2日付けで、平成19年度から当センターが中核機関として実施してまいりました都市エリア産学官連携促進事業(発展型)の後継事業として、文部科学省の地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)に「いわて発」のコバルト合金のプロジェクトが採択されました。本事業では、「いわて発」高付加価値コバルト合金を創製し、医療機器用及び一般産業用実用化基盤を構築したこれまでの取組みの成果を活用し、製品化や材料の規格化へ向けた研究開発、生体用材料としてニーズの高い欧米市場展開へ向けた研究開発及び販路拡大の取組を推進し、既に当地域で企業化した合金材製造事業を核とした国際競争力のあるイノベーションクラスターの形成を図ってまいります。

この事業を補完する目的で、4月より岩手県の補助事業である「コバルト合金新産業クラスター形成促進事業」も推進してまいりましたが、この文科省の事業の採択を受けまして、いわてのコバルト合金プロジェクトの本格始動となります。

事業総括をはじめ、本事業を推進してまいります新メンバーを御紹介します。どうぞ、よろしくお願い致します。



北いわて(二戸・久慈地区) アパレル関連企業情報交換会開催報告

県北地区の基幹産業の1つとなっているアパレル関連産業の企業間交流を深めていただくため、8月26日に「北いわて(二戸・久慈地区)アパレル関連企業情報交換会」を一戸町、二戸市にて開催いたしました。

情報交換会は2部構成で、第1部は、イージーオーダースーツを製造しておられる日本ソーイング(株)若手工場様(一戸町)の工場見学を行い、第2部では、二戸市カシオペアメッセなにやーにて、参加企業から会社概要・業況等の紹介、当センターコーディネーター齋藤氏による

出前講座「減産下でも利益を出すために」、意見交換を行いました。当日は、二戸地域から6社10名、久慈地域から7社7名の企業の皆様からご参加いただき、関係機関からの参加者も含めると総勢34名の情報交換会となりました。

工場見学については、後日改めて他の従業員にも見学させたいとの



感想が出されたり、意見交換の場では、地元人材の雇用、育成に関する問題や県北地域におけるアパレル産業の技術力の情報発信に関する提案等について活発な意見交換が行われ、企業間の交流が図られるとともに、参加者にとって大いに参考になる情報交換会となったようです。

下請法を学ぼう!

第3回



下請代金支払遅延等防止法(下請法)は、下請取引の公正化、下請事業者の利益の保護等を図ることを目的とした法律です。本欄では、下請法について、数回に分けて解説します。「下請法を学ぼう!」第3回は、「下請法で禁止されている行為」についてです。

下請法で禁止されている行為について

下請法では、下請取引の公正化及び下請事業者の利益保護のため、親事業者に対し11項目の禁止事項を定めています。たとえ下請事業者の了解を得ていても、また、親事業者に違法性の認識がなくても、これらの規定に触れる場合には、下請法に違反することになりますので、十分に注意する必要があります。

禁止事項	概要
①受領拒否の禁止 (第4条第1項第1号)	下請事業者に責任がないのに、発注した物品等の受領を拒むことです。発注の取消、納期の延期などで納品物を受け取らない場合も該当します。
②下請代金の支払遅延の禁止 (第4条第1項第2号)	発注した物品等を受領した日から、60日以内に定めた支払期日までに下請代金を支払わないことです。
③下請代金の減額の禁止 (第4条第1項第3号)	下請事業者に責任がないのに、発注時に決定した下請代金を減額することです。
④返品禁止 (第4条第1項第4号)	下請事業者に責任がないのに、発注した物品等を受領した後に返品することです。
⑤買いたたきの禁止 (第4条第1項第5号)	発注する物品・役務等に通常支払われる対価に比べ、著しく低い下請代金を不当に定めることです。通常支払われる対価とは、同種又は類似品等の市価や従来からの取引価格をいいます。
⑥購入・利用強制の禁止 (第4条第1項第6号)	発注する物品の品質を維持するなど正当な理由がないのに、親事業者が指定する物、役務を強制的に購入・利用させることです。
⑦報復措置の禁止 (第4条第1項第7号)	親事業者の不公正な行為を公正取引委員会又は中小企業庁に知らせたことを理由として取引数量の削減、取引停止等の不利益な扱いをすることです。
⑧有償支給原材料等の対価の早期決済の禁止 (第4条第2項第1号)	有償で支給した原材料等の対価を、当該原材料等を用いた給付に係る下請代金の支払期日より早い時期に相殺したり支払わせたりすることです。
⑨割引困難な手形の交付の禁止 (第4条第2項第2号)	一般の金融機関で割引を受けることが困難な手形を交付することです。現在の運用では、繊維業は90日、その他の業種は120日を超える手形は長期の手形と解されています。
⑩不当な経済上の利益の提供要請の禁止 (第4条第2項第3号)	自己のために、下請事業者に金銭、役務、その他の経済上の利益を不当に提供させることです。下請代金の支払とは独立して行われる協賛金や従業員の派遣要請などが該当します。
⑪不当な給付内容の変更及び不当なやり直しの禁止 (第4条第2項第4号)	下請事業者に責任がないのに、発注の取消や発注内容の変更を行ったり、物品を受領した後に費用を負担せずにやり直しや追加作業を行わせることです。

上記禁止事項のうち、①受領拒否の禁止～⑦報復措置の禁止に該当する行為は、下請事業者の利益を不当に害する行為として直ちに下請法違反となります。一方、⑧有償支給原材料等の対価の早期決済の禁止～⑪不当な給付内容の変更及び不当なやり直しの禁止に該当する行為については、このような行為を行うことによって下請事業者の利益を不当に害する場合に下請法違反となります。

今回は、親事業者の禁止行為の中で違反件数の多い「下請代金の支払遅延の禁止」について解説します。

お問い合わせは

公正取引委員会事務局東北事務所 下請課
仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎
TEL 022-225-8420 (直) FAX 022-261-3548

岩手県洋野町

株式会社長根商店

人と大地と自然に感謝…
ヘルシーなキノコで健康増進

当社は「不思議の国の北リアス」洋野町を拠点とし、「人と大地と自然に感謝」をモットーに、ヘルシー食材・キノコの商品を提供し続けています。

あみたけ、ならたけ、本シメジ、山なめこなどさまざまなキノコを取り扱っております。

ダイエットに役立つ食品として、こんにやくとキノコを融合した、「きのこん」を開発いたしました。お肉の味わいをもった、新しい食感をお楽しみください。お手頃価格でお楽しみいただけます。



会社情報

代表者名	長根健一	従業員数	30名
事業内容	農産物の加工、販売	住所	〒028-7900 洋野町中野9-16-1
		T E L	0194-67-3660
設立	昭和62年創業	F A X	0194-67-3454
資本金	2,000万円	U R L	http://www18.ocn.ne.jp/~n-kinoko/

岩手県一関市

株式会社東北ウエノ

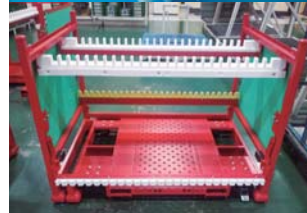
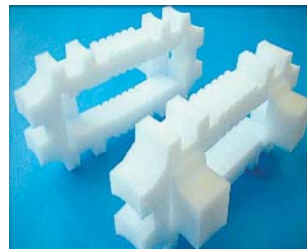
縁の下の力持ち…包装で
コストダウンがはじまります

『適材適包』…包装・梱包材を作る当社のテーマです。

詰め込めるだけ詰め込めばコスト低減にはなりますが、トラブルのもとにもなりかねません。お客様の要望に合った包装とは…。適正な包装のしかたを提示します。

当社は設計から製造までを行い、実験も可能ですから、オーダーメイドの包装材が作れます。

ムダな包装・梱包はコスト・時間の浪費につながります。一度、御社の包装を考え直してみませんか？お手伝いさせていただきます。



会社情報

代表者名	鈴木雅彦	従業員数	9名
事業内容	精密機器等の包装開発 ・コスト改善・資材販売 輸送用台車の開発・製造	住所	〒021-0893 一関市地主町3-35コスモビル2F
		T E L	0191-21-4531
設立	平成8年4月	F A X	0191-21-5381
資本金	1,000万円	U R L	http://www.touhokuueno.co.jp/

岩手県一関市

有限会社丸已建設

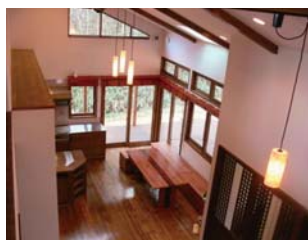
木曾東濃檜の木の家
『地球民家』、『外断熱の地熱住宅』

こんな家に住みたい…と皆が思うような家を目指し、心を込めた住まいづくりを心がけています。

国産のムクヤ木製サッシなど、「木の家」にこだわった『地球民家』は当社自慢のメニューです。時間を経過するとともに、木の素材がより深みを増していきます。

これ以外にも、オール電化住宅など、外断熱・高気密の基本を守りつつ、さまざまなお客様のご要望に応えた家を建てています。

リフォーム相談会やIH体験会なども行っております。WEBサイトをご覧ください。



会社情報

代表者名	水谷文昭	従業員数	16名
事業内容	建設業（一般家屋、店舗、地熱住宅）	住所	〒029-0302 一関市東山町長坂字西本町107-3
		T E L	0191-47-2480
設立	昭和49年4月	F A X	0191-47-2319
資本金	1,100万円	U R L	http://www.marumikensetsu.jp/

岩手県陸前高田市

酔仙酒造（株）

伝え継がれた技で、
新しい地酒文化を発信

岩手県三陸沿岸の最南端に位置し、“清酒造り”とその技術を生かした“焼酎造り”で特異性のある酒蔵です。

日本画家の佐藤華岳斎が【酔うて仙境に入るが如し】と讃え愛した酔仙の酒は、自然あふれる岩手の清らかな山水と、美味しいお米、そして岩手の歴史ある南部杜氏の手によって丹念に造られています。

先人の足跡に学び、「更なる品質の向上」を目指し不断の努力を重ね、酒蔵としての王道を歩み続けて参ります。

また、お客様はもとより、お取引先様をはじめ地域の皆様に「信頼される企業」であることはもちろん、酒類を通じてお客様へ心豊かなひとときを提供していくことを使命と考えております。



会社情報

代表者名	金野靖彦	従業員数	45名
事業内容	清酒、焼酎、 ブランデーの醸造・販売	住所	〒029-2205 陸前高田市高田町大石1-1
		T E L	0192-55-3141
設立	昭和19年9月	F A X	0192-54-4098
資本金	7,275万円	U R L	http://www.suisen.co.jp